

麻疹風疹混合予防接種の説明

接種対象年齢	1期：1歳から2歳に至るまで 2期：小学校就学前の1年間（いわゆる幼稚園、保育所等の年長児）
ワクチンの種類	生ワクチン
予防する病気	<p><麻疹（はしか）> 麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1000人に1～2人の割合で発生がみられます。また亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例発生します。このように予防接種を受けずに、麻疹（はしか）にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。</p> <p><風疹> 風疹ウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。妊婦が妊娠初期にかかると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。</p>
接種回数	<p>2回</p> <p>1歳から2歳に至るまで</p> <p>小学校就学前1年間</p>
実施時期	年間通して実施
実施場所	個別予防接種実施医療機関
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんについての接種時期については、かかりつけ医と相談して下さい。（ガンマグロブリンは血液製剤の一種でA型肝炎等の感染症の予防目的や重症の感染症の治療目的などで注射することがあります。） 妊娠していることが明らかな人は接種ができません。 麻疹又は風疹のいずれにかかった者にも、麻疹風疹混合ワクチンを使用することが可能とされています。
副反応	副反応の主なものは、発熱と発疹です。他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。これまでの麻疹ワクチン、風疹ワクチンの副反応のデータからアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応がまれに生じる可能性もあります。
備考	各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。 必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。